

1
800

水素の大量輸送を実現する、川崎重工のテクノロジー。

未来の水素エネルギー社会には、水素の安定供給は欠かせません。

「大量の水素をどのように確保するのか」。この課題に川崎重工は、海外の未利用資源から製造された大量の水素を-253℃まで冷却して液化、体積を1/800に縮小して効率的に日本へ運ぶという構想を推進。

世界初となる液化水素運搬船の実用化に向けた開発を進めています。

そこには、日本初の液化天然ガス(LNG)運搬船を建造したノウハウと独自のテクノロジーが活かされています。

川崎重工は、「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」といった“水素エネルギーサプライチェーン”に必要な、インフラ技術の開発・製品化に取り組んでいます。水素を安全に、安価に、安定的に取り扱い、私たちの豊かな暮らしを実現していく道。それが“Kawasaki Hydrogen Road”です。

つくる



未利用資源の活用



液化水素の製造

はこぶ・ためる



液化水素の大量輸送



液化水素の長期貯蔵

つかう



水素ガスタービン発電



燃料電池車の燃料

Kawasaki Hydrogen Road